

今後の飼料増産に向けた意見交換会（九州ブロック）の概要

月日：平成17年8月29日（火）

場所：チサンホテル熊本（熊本市）

参加者：農林水産省、県、県中央会、県経済連、県畜産協会他

1 国産稲わら（17年出来秋分）の確保状況

- ・県内需給で不足が見込まれる県：

鹿児島県（43千トン）、宮崎県（37千トン）、長崎県（10千トン）

- ・県内需給で余裕が見込まれる県：福岡県（3千トン）

- ・県内需給が均衡すると見込まれる県：佐賀県、熊本県、大分県

2 国産稲わら確保に向けたこれまでの取り組み

- ・早期米稲わらの収集（40ha、約200トン）：鹿児島県経済連

- ・広域流通（他県からの斡旋）に向けた活動

鹿児島経済連 佐賀県経済連と打ち合わせ、熊本（八代）を現地調査

宮崎県経済連 関西圏を現地調査

3 意見交換会で浮かび上がった稲わら流通に係る課題

- ・実需者が要望する相手先（稲わら供給可能者）の明確化

- ・第三者による斡旋、調整（流通に係る具体的な条件を提示、調整し得る者の存在）

- ・広域流通を図る場合の流通コスト等掛かり増し経費の低減

- ・稲わら収集、運搬を担う組織の育成

4 今後の対応方向

- ・九州管内の広域流通を推進する観点から、九州版の供給者リストを9月中に作成し、具体的な行動に入ることにより、17年出来秋の稲わらの最大限の確保を図る。